



子育てしながら三世代交流・地域の茶の間 (北海道札幌市)

札幌市の地下鉄南北線の北の終点、麻生駅から徒歩約5分の麻生商店街ビルの2階にある「Cafe 亜麻人(あまんど)」は、麻生商店街振興組合が、NPO法人子育て支援ワーカーズ・プチトマトと、札幌市の商店街活性化支援を受け、「あさぶ商店街地域力アップ事業」として取り組んでいる三世代交流サロンです。

まちづくりの活動を通して、地域の人たちが顔見知りになり、あいさつできる関係ができれば、住みやすい地域になるのではと感じ、0～12歳までの子どもを在宅で一時保育(ベビーシッター)したり、グループや団体の講演会、講習会などでの出張保育のほか、あそびの広場、子育て家庭にむけた遊びの会、絵本の読み聞かせ、人形劇、音楽会、子育て講演会、情報の提供など、子育て全般の支援活動を行っています。

また、さまざまな世代の人たちが交流できる場所を地域に作りたいたと、コミュニケーションカフェを実施しました。一品30円で手作りのお

かずをあれこれ提供したり、ぬりえセラピー、木のおもちや、昔あそびのお楽しみコーナーなど子どもからお年寄りまで楽しめる場を演出しました。

実験は大盛況に終わり、麻生に「こうした交流の場が本当に必要なんだ。」と心から確信しました。

実験を成功で終え、今度は本格的なコミュニケーションカフェの立ち上げに拍車がかかり、麻生商店街振興組合の理事長に、熱い思いを告げると「共に憩いの場を作ろう」と喜んで協力の姿勢を現しました。

開設準備にむけてさっそく「平成21・22・23年札幌市街地域商業魅力アップ補助対象事業」に応募し、商店街理事会の承認を受けて申請しました。

事業申請は受諾され、「三世代交流コミュニケーションカフェ」づくりが本格スタートし、空き店舗であった駅前ビルの2階を改修し、平成21年7月、ついに念願のカフェがオープンしました。

中は、常設カフェのためのテーブルとカウンターの11席と、親子の広場として一角には6畳分の畳を敷きました。子どもたちが遊べるスペースを確保し、木製のおも

ちゃ・絵本書棚を充実させました。このスペースは、手作り作品を展示販売するレンタルボックスのほか、急な用事に専属スタッフが店内で子どもをみてくれるスポット保育や、趣味やグループ会合、お茶会などでも借りることができます。

また、地域の人が集う交流の機会として、子育てやおもちやの講演会、みそ作り、お菓子作り、メイク講習会、花あそび、ハーブ講習会、タロット、落語会、雪像作り、フリーマーケット、コンサート...など毎月楽しいイベントを開催しています。

NPO法人子育て支援ワーカーズ・プチトマトは、まちづくりのコーディネーターとしての功績が評価され、昨年北海道まちづくりコンクールで「北海道福祉のまちづくり賞」を受賞しました。

「麻生を歩いていると、いろいろな人が声をかけてくれ、今では麻生は故郷で、今後も亜麻人を拠点にもっと新たな活動が広がるように続けていきたい」と語っています。

(参考文献 まちむら2011年2月号)